

第64回 社会を明るくする運動 射水市作品コンテスト

優秀賞31名を表彰



▲ 夏野元志市長よりひとりひとりに表彰状を

射水更生保護

発行・編集

射水保護司会
会長 五十嵐 繁久

TEL 0766-52-7696

〒934-8555

射水市本町2丁目10番30号
射水市福祉保健部 社会福祉課内

平成二十六年十月五日(日)、
第六十四回「社会を明るくする運動」
射水作品コンテスト表彰式が射水市
大門総合会館で開催されました。

射水市作品コンテストは、毎年「社会を明るくする運動」事業の一環として射水市推進委員会と射水保護司会の学校部会が中心となり、コンテストを通して「非行や犯罪のない社会の実現」を目指して実施しています。

射水市内の小学校十五校、中学校六校から、作文、ポスター、標語を合わせて、約千八百点の応募をいただきました。

表彰式は、「社会を明るくする運動」射水市推進委員長夏野元志市長のあいさつに続いて、八木真一保護観察所長よりのご祝辞を安藤康企画調整課長から代読いただきました。

表彰式後、特別出演として小杉南中学校御後愛良さんに『母からの贈り物』と題して、体験発表をしていただきました。

御後さんは、第52回富山県中学生生活体験発表大会に射水市代表として参加し、見事富山保護観察所長賞を受賞されました。

続いて、次の四名の方々に富山県推進委員会への推薦作文を発表していただきました。

○新湊小学校 六年 買場 美桜さん

『笑顔』

○大閭山小学校 六年 中村 心成さん

『あいさつのキャッチボールは自分から』

○射北中学校 二年 河野 早希さん

『報われない努力も』

○小杉中学校 三年 松木 瑛莉子さん
『あきらめない心』

ひとりひとりの発表に、他人と関わることで、自ら感じ、考え、実践していく心とする心を持ち、日常の中で成長していく姿を心強く感じました。

保護司会や更生保護関係者・父兄だけでなく、地域の方にも是非聴いていただけたらと願う、素晴らしい発表でした。

本コンテストの優秀作品は毎年、中学生生活体験発表大会の優秀作品とともに作品集として発行し、関係機関に配布しています。



『更生保護サポートセンター射水』

〒939-0234 射水市二〇1081番地

射水市役所大門庁舎 車庫棟2階

電話：0766(52)7696

FAX：0766(52)7697

ホームページ URL：hogosi.com

E-mail：imizuhogoshikai@gmail.com

月曜日から金曜日

午前9時30分～午後3時30分まで

企画調整保護司が交代で常駐しています。

第六十四回 社会を明るくする運動
射水市作品コンテスト 優秀賞者氏名

◆作文の部

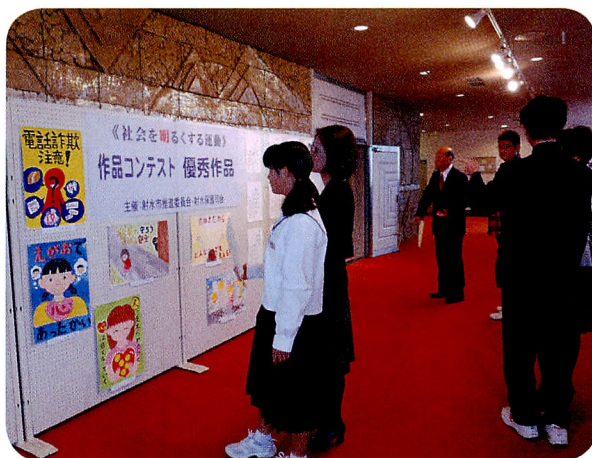
新湊小学校	六年	買場美桜
太閤山小学校	六年	中村心成
中太閤山小学校	五年	川淵遥
大島小学校	六年	永廣花梨
小杉小学校	五年	小西二葉
射北中学校	二年	河野早希
小杉中学校	三年	松本瑛莉子
大門中学校	二年	松長沙都希
新湊中学校	一年	加治芹菜
新湊南部中学校	二年	浦上生羽

◆ポスターの部

塚原小学校	五年	谷嵐千桜
大島小学校	五年	原田和芽奈
大島小学校	五年	米澤咲良
小杉小学校	六年	宮崎亜由美
作道小学校	四年	石黒月葉
作道小学校	五年	栢万智
東明小学校	五年	波ゆき乃
東明小学校	五年	岩井希愛
放生津小学校	六年	渋谷知夏
新湊小学校	四年	高木真奈佳
歌の森小学校	五年	小林空

◆標語の部

新湊小学校	二年	脇坂駿一
作道小学校	五年	林貴太郎
作道小学校	四年	京谷萌枝
片口小学校	二年	横井千依子
片口小学校	二年	丸池竜晟
大島小学校	四年	永森陽彩
塚原小学校	五年	向山湧月
下村小学校	五年	山口円香
金山小学校	六年	東山新奈
東明小学校	五年	丸田菜々美



小学校で薬物乱用の怖さ伝える

平成二十六年度も昨年度に引き続き、射水市教育委員会、各小学校のご理解とご協力をいただき、新湊・小杉・大門のライオンズクラブと協同で、市内十四小学校で六年生対象に薬物乱用防止教室を開催しました。

薬とは、「ケガや病気で傷ついた体を、本来の健康な状態に戻すためのもの」なのですが、法律、社会的常識、医学的常識から外れた方法や目的で、薬を使用することを「薬物乱用」と総称します。脳や神経に作用する危険な薬もあるので、使用するときは、決められたルールをしっかりと守らなければいけないのです。ルール違反の使用は、一回でも乱用になるのです。



▲「薬物で傷ついた脳は元には戻りません」

DVDや教本を使用して、薬物乱用や「危険ドラッグ」の使用が心身に及ぼす深刻な影響について伝え、子どもたちに自分自身の体や未来を大切にしてほしいと訴えました。



▲悪い誘いは、すぐに、きっぱり断ろう

インターネットから「STOP the 薬物!」平成26年度厚生労働省薬物乱用防止啓発訪問事業の公式アカウントです。危険な薬物について、具体的な最新事例や、薬物乱用がもたらす影響などを紹介しています。
<https://twitter.com/StopTheDrug>
内閣府政府広報オンライン
危険ドラッグの怖さと、乱用者の処罰などを含めた規制の内容はこちらから。
<http://www.gov-online.go.jp/tokusyu/drug/>

「更生保護サポートセンター射水」で運営協議会開催

平成二十六年十月二十八日、「サポートセンター射水」で富山保護観察所により、富山県サポートセンター運営協議会が開催され、観察所からは八木富山観察所長・安藤企画調整課長・藤田観察官・鈴木会計係長が出席されました。



既設保護司会が高岡、富山保護司会からサポートセンター設置にあたっての「保護司や事務的な負担が増えるのではないか」との疑問・質問に運営の現状を説明し、「社会貢献活動のグループワークの拠点の役割を果たしている」「先輩保護司の体験談・アドバイスをいつでも聞ける」などの良かった点や、「サポートセンターに常駐する当番保護司の確保に苦慮している」「地域の他機関と連携するためには、サポートセンター以外の場所での活動が多い」などの問題点や課題も発言されました。

更生保護サポートセンターは、地域に支えられた保護司活動を行うため、保護司活動の拠点、面接場所の確保のほか、保護司個人の力では立ち直

りの支援が困難な状況が増える中、地域の専門機関・専門家と円滑な関係を築くこと、地域の安全・安心のために寄与することなどが期待されて現在全国に三百ヶ所以上設置され、今後増設が予定されています。

滑川、氷見、射水の既にサポートセンターを運営している保護司会、新規に設置する高岡、設置を検討中の富山、各保護司会の代表、県保護司会連合会から米澤治夫会長と、四下事務局長、射水からは五十嵐会長、三宅副会長、棚田事務局長の三名他、企画調整保護司が参加しました。

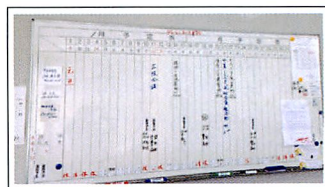


「更生保護サポートセンター射水」だより

「雑談から」

熊谷正克

射水市大門庁舎車庫棟二階。ここに「更生保護サポートセンター射水」がある。平成二十四年八月に開設された。十二人の企画調整保護司が半日交代で駐在している。



時折、保護司の方々が事務処理や連絡等の用事で来所される。そして用事が済むと世間話が始まることもある。そのうち保護観察対象者に対する面接時の苦労話になる。冗談交じりの話になるのだが、これが実に為になる。対象者に対する思いや接し方に共感したり気付けられたりする。対象者の立ち直りを保護司の目線で「見守る」姿勢が伝わってくる。

以前、ある講演でこんな話を聞いたことがある。

「見守るとは、ただ見ていることではない。任せておけばよいのか（その調子で続けたら）、促せばよいのか（もうちょっと頑張ってみたら）、指導すればよいのか（間違っているから考え直しなさい）、この三つの視点を持って見ることだ」と。

これは、その時の状況に応じた適切

な働きかけの大切さを示している。この姿勢は保護司と面接対象者との接し方そのものではないか。来所された保護司の方々のざっくばらんな話の中から、自身が改めて思い起こし、感じたことである。

当センターは更生保護活動の拠点として、資料・情報の収集と提供、研修や会議の開催、犯罪予防活動の計画と準備、対象者の面接場所としての活用など、その機能を充実しつつある。もう一つの機能として、保護司仲間が気軽に立ち寄り、気軽に語り、個々の「見守る」姿勢に資する「センター」であってほしいと思う。





射水市更生保護女性会だより

■県更生保護女性連盟 会員研修に参加して■

昨年十二月二日、富山市のオークスカナルパークホテルで開催された会員研修に参加しました。

テーマは「地区会における更生保護女性会員の役割をより拡げるために」

当日は、「期待される更女のこれから」と題して日本更生保護女性連盟会長の千葉景子氏（元法務大臣）の特別講演が予定されており、期待に胸弾ませて参加したのですが、日本列島を強風が襲い飛行機は欠航、上越新幹線は運転見合わせと言うアクシデントに見まわれ、特別講演は中止となりました。

二十六年六月十日に会長に就任され、初めての来県予定でしたがお話が聞けずとても残念でした。

予定されていた日程も急遽変更になり、午前中の講義から順次開催されました。

最初は、富山保護観察所統括保護観察官の橋本力氏。平成二十七年七月から本格実施される「社会貢献活動」について講義を受けました。内容は、保護観察対象者に公の施設や場所（公民館・道路・公園・特別養護老人ホームなど）で清掃を行って、地域社会に役立つ活動を一定期間に複数回行わせる

というもの。そして自己有用感や規範意識・社会性の向上を促し、改善更生・再犯防止を図るものであると、とても分かりやすく説明してくださいました。

いよいよ二十七年からは、私達も地区会の皆さんと一緒に参加し、協力することになるのかなと実感させられました。

午後からは、昨年六月名古屋市中で開催された中部更女代表者研究協議会に出席された本市の道古会長さんの報告と、同じく昨年十月東京で開催された更女会員中央研修に出席された福光の石野順子会長さんの報告を受けました。

二十七年から刑の一部執行猶予制度が導入されることにより、「社会貢献活動」が本格的に実施されることとなります。そのため更生保護制度が大きく変わることになり、それに対応すべく更生保護女性会の組織及び活動の在り方について検討していかなければならないと共に理解を深めあいました。

(Y・K)



■富山ダルクを訪問

今年度の理事研修で十二月十日、富山ダルクを訪問しました。

ダルクとは薬物依存者の社会復帰施設です。全国に七十カ所あり富山県には岩瀬古志町に一カ所だけで、約二十人余りの方が生活しながら、薬物依存からの回復を目指して頑張っておられます。この施設の建物は、海岸沿いの見落としそうな小さい看板がかかった古い民家です。施設には日用品が不足しているとのことで、各自タオルや、洗剤、インスタントコーヒーなどを持ち寄り訪ねました。

入所者の中のリーダー的な青年から入所者の状況や一日の生活の流れ、ボランティア作業、運動等、薬物を使わない楽しさを知るためのプログラムを日常実践しているとの説明を受けました。また「あなたはどのようにして薬物を使うことになったのですか」との質問に、自分の富山ダルクまでの道のりを正直に話されました。その話の中から、温かい家庭や友達の大切さを痛感しました。

最初は軽い気持ちや興味本位で薬物に手を出すのですが、一度体に入れば止められなくなるのが薬物の怖いところです。最近の新聞、テレビのニュース等で、大麻、覚せい剤、危険ドラッグによる事件が、度々報道されており、これらの薬物は身近で簡単に手に入るようです。私たちの身近な地域社会に被害者を出さないように、「ノー！ドラッグ」と言い続けなければ、と強く感じました。入所者の皆さんの一日も早い回復を願いながら、施設を後にしました。

受賞おめでとうございます

◆日本更生保護女性連盟会長表彰

三田 英子

◆中部地方更生保護委員会委員長感謝状

小松 悦子

◆中部地方更生保護女性連盟会長表彰

石黒 ヒロ子

◆富山保護観察所長感謝状

浜 美千代

織田 紀子

久々江 ます美

眞岸 潤子

高岡 佳代子

佐々木 悦子

米田 明子

二瀬 昭子

稲沢 順子



◎平成二十六年度事業の概要

(平成27年1月～2月)

1月11日 富山養得園へ給食活動

(大門)

18日 富山養得園へ給食活動

(塚原・中伏木)

25日 富山養得園へ給食活動

(堀岡・作道・片口)

26日 県更生保護女性連盟理事会

27日 市更生保護女性会役員会

2月6日 市更生保護女性会理事会

3月7日 射水市更生保護女性会

全体研修会

わたしたちの地区活動を紹介します

養得園給食活動

作道・片口・堀岡地区合同の給食活動は、例年一月のため降雪状況が一番の気掛かりですが、一月二十五日は立山連峰がすっきりと顔を出し、活動を応援してくれているような冬晴れの日となりました。

十二月の理事会後献立を検討。担当者はみな経験者ばかりなので心強いことこの上なし。

地区それぞれの会員の得意料理を生かして、自家栽培の大根や里芋など七種の『煮しめ』

「家の米うんまいがいよ」と、つやつやのご飯を担当する人。

「正月気分もちよっこし入れたいわ」と『黒豆』『大根なます』

「たんぱく質！」と『チキンカツ』（果物サラダ添え）

「おふくろの味はやっぱりみそ汁やよ」と、すり身、豆腐、三種のきのこ貝沢山に。合計三十五品目の食材を使って五皿が完成。

流し台、調理台、床など念入りに清掃。報告書を記入しながら入園者昨年より三名減に少し安堵。生きていくことの根源である『食』にかかわる求職活動が少しでも社会復帰の後押しになれば…。

小さな積み重ねを続けることに大きな意義があると強く感じました。



子育て支援活動

（堀岡地区）

なでしこの会 濱美千代
平成二十六年度

（福）かづみ野保育園での活動状況を次の通り報告します。

- 紙芝居（年四回）
- 焼き芋パーティー（十月）
- お餅つき（十二月）
- お手玉作り（八月）

お手玉作りは、会員八名参加のもと材料（布切れ・ペレット・数珠玉など）を持ち込み、和気あいあい楽しく心のこもったお手玉を作り、七十個（大十二個、小五十八個）を園にプレゼントしました。

平成二十七年二月に保育園児と一緒に楽しくお手玉で遊ぶ予定にしています。昔、子供の頃のお手玉遊びを思い出しながら、園児に伝承したいと思っています。





平成 26 年度県外研修 射水保護司会 11月18日～19日

更生保護の変革の波は、大きな「うねり」のように進んでいます。私達の活動は、とても地道な動きではありますが、とても社会性の高い地域活動と考えております。今回の視察を振り返りますと、これまでの「監獄・刑務所的」な捉え方から、一歩進んで「社会でどう生きるか！」が重点的に捉えられています。「強制労働から技術の習得」へと変化している現場をしっかりと見ることが出来ました。

(研修部長 松物和広)



播磨社会復帰促進センタは、施設の建設を国費で行った上で、施設の維持管理、警備、作業、教育などさまざまな業務を、法務省と民間企業が協働で実施する運営に特化したPFI (Private Finance Initiative) 事業として運営される新しい刑務所です。

敷地面積 126,000㎡ / 建物面積延 47,000㎡ / 総工費 121億 3,500万円 /

収容定員 1,000人 (うち特化ユニット120人)

国の職員は約150人ですが、このうちの100人以上は被収容者の処遇や警備を行う処遇部門の職員です。



播磨社会復帰促進センターでは、犯罪傾向が進んでいない、26歳以上の男性受刑者を収容します。

刑務所への収容が初めてで執行刑期が1年以上8年未満であること、集団生活に順応でき、心身に著しい障害のないことなどが条件になっています。

◆ 部会だより ◆

◆ 総務部会

9月26日 第四回理事会を開催
10月28日 富山県サポートセンター
運営協議会
12月2日 第五回理事会を開催
12月15日 企画調整保護司会議
12月22日 十周年記念事業委員会

◆ 学校部会

射水市「社会を明るくする運動」作品コンテストには、市内小学校十四校、中学校六校から多数の作文・ポスター・標語の応募をいただきました。その中から優秀作品を選び、表彰式を行いました。ご協力いただいた学校関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

作品コンテストは、「社会を明るくする運動」の一環として実施しているものです。この活動が小・中学生にとって、犯罪や非行のない社会をつくるための、きっかけになることを願っています。

◆ 研修部会

研修内容の充実を目指して！
昨年は、2回の「地域処遇会議」を企画し「介護保険・雇用政策」について学びました。今、保護司にとって「必要な情報は何か？」常に問いかけながらの状況であります。

改めて、研修内容を見つめなおしていかなければなりません。なぜならば、処遇内容や対象者の状況変化が著しい社会現象が背景にはあります。こ

れからは、「保護司や保護司会」自体の改革も求められてくることでしよう。

保護司自ら向上出来るよう、進めていきたいと研修部一同考えております。御意見お待ちいたしております。

◆ 地域活動部会

社会貢献活動は七月二十八日、ことぶき苑にて、実施されました。お茶の配膳、浴槽、車椅子の清掃をし、皆さんに笑顔を戴き、さっぱりした気分で終えることができました。二回目は一月二十一日の予定です。

薬物乱用防止十四教室が順次行われました。いずれの教室も、ライオンスクラブの皆さんの熱のこもった話しぐりに子供たちも引き込まれて聞いていました。「自分を必要とする人が必ずいる」ことを信じて成長して頂きたいと思えます。

十二月堀岡保育園にて、更生保護女性会の皆さんと一緒に餅つき会に参加、園児八十七名の掛け声であったという間につきあがり、つきたての黄粉餅を美味しくいただきました。

◆ 協力組織部会

立ち直ろうとする人を支援する協力雇用主を募集しています。詳しくは、富山保護観察所にお問合せください。

◆ 広報部会

随時 射水保護司会ホームページ(アドレスは <http://hogosi.com> です)で随時情報発信を行っています。

五十嵐繁久会長の叙勲を祝う

昨年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章した射水保護司会会長の五十嵐繁久氏の祝賀会が、二月二十一日、第一イン新湊で開かれ、更生保護に尽くした功績をたたえました。

発起人を代表して江尻昭射水保護司会副会長があいさつ。夏野元志市長、堀義治市議会議長、八木真一富山保護観察所長、四方正治県議、友人代表の波昌幸海老江コミュニティセンター長が祝辞を述べました。

孫の森ゆらさんから、五十嵐氏と妻の輝海子さんに花束が贈られ、五十嵐氏は保護司としての二十七年余を振り返り「更生した人の笑顔が忘れられない」、「先輩、同僚に支えられて今日まで来た。経験を活かして、今後も明るい社会づくりに取り組んでいきたい」と謝辞を述べました。

米澤治夫県保護司会連合会会長の発声により乾杯。山本修射水地区更生保護協力雇用主会会長の音頭で万歳三唱。岩口和義射水市更生保護協力会副会長が閉会のあいさつをしました。



◆ 秋の叙勲

瑞宝双光章

五十嵐繁久

更生保護受彰者紹介

法務大臣表彰

大濱晴彦／龍本茂樹／瀧内一雄
新中孝子／寺腰健一

全国保護司連盟理事長表彰

(内助) 五十嵐輝海子

中部地方更生保護委員会委員長表彰

石村むつみ／高橋禮子

中部地方保護司連盟会長表彰

富岡民生／佐賀あさ子／廣瀬秀昭

富山保護観察所長表彰

澤英明／熊谷正克／山本雅幸

高島辰夫／長徳一／堀浩昭

富山保護観察所長感謝状

藍口信子／境文夫／林弥生

塚本秀樹

(家族) 多賀敏美

(民間協力者)

小杉ライオンズクラブ

社会福祉法人 喜寿会

特別養護老人ホーム 七美ことぶき苑

富山県保護司会連合会会長表彰

室田清一／森田ひとみ／本江重吉

射水市政功労者表彰

瀧内一雄

射水市社会福祉協議会会長表彰

多賀正夫／石村むつみ

◆射水保護司会事務局日誌◆

平成26年

9月12日 薬物乱用防止教室（金山小）

第2回地域処遇会議

21日 射水市の雇用政策について

（射水市産業経済部商工

企業立地課 前田豊課長）

24日 薬物乱用防止教室（大島小）

26日 第4回理事会

29・30日

更生保護協力会企業訪問

10月5日 第64回「社会を明るくする運動」

射水市作品コンテスト表彰式

8日 射水市社会福祉大会

14日 薬物乱用防止教室（作道小）

15日 富山県社会福祉大会

16・17日

中部地方保護司代表者会議（名古屋

28日 県内更生保護サポーターセンター

運営協議会（射水）

11月1日 射水市政功労賞表彰式

10日 薬物乱用防止教室（小杉）

11日 富山県更生保護大会

13日 薬物乱用防止教室（太閤山小）

18・19日

先進地視察一泊研修

28日 中部更生保護大会（金沢）

12月2日 定例研修会・自主研修会

第5回理事会

8日 薬物乱用防止指導員大会

16日 薬物乱用防止教室（中太閤山小）

22日 10周年記念事業実行委員会

平成27年

1月13日 三役会

14日 薬物乱用防止教室（堀岡小）

20日 薬物乱用防止教室（塚原小）

22日 薬物乱用防止教室（大門小）

26日 薬物乱用防止教室（歌の森小）

27日 薬物乱用防止教室（新湊小）

28日 薬物乱用防止教室（東明小）

30日 中部地方保護司研究協議会

2月3日・4日

定例研修会・自主研修会

新任・退任保護司歓送迎会

3日 薬物乱用防止教室（片口小）

5日 県広報部会

10日 三役会

兵庫県東灘区保護司会来訪

17日 更生保護相談・定期駐在

薬物乱用防止教室（下村）

21日 五十嵐会長叙勲祝賀会

26日 企画調整保護司特別研修

3月10日 三役会

第6回理事会

◆保護司の異動・退任◆

◆新任保護司（26年12月19日付）

高木 秋生（塚原）

永森 直人（小杉）

中村 奈千代（二口）

◆退任保護司（26年12月19日付）

川口 和香子

南 英子

退任に寄せて

川口 和香子

保護司に就任以来、来訪、往訪を重ね二十四年間と長きにわたり、多くの先輩や皆様方のおかげで、無事、退任することができました。本当にありがとうございます。

今まで窃盗、恐喝、覚せい剤、交通事犯者などを担当しましたが、中でも、「人の物に手を出してはいけません」と何度も言い聞かせた窃盗の少年のことが思い出されます。ある日の来訪で、「どうしてもお金がほしくなり、ある家の前まで行ったけれど、保護司さんの言葉が耳に響いてきて、思い直しました。」と言ってくれた時の嬉しさは忘れることができません。つくづく、家族が幼いころから、何度も言い聞かせてやっていれば、と思いました。少年犯罪の多くの原因は家庭にあること、そして子供に関心を持たない親が多いこと、また、地域全体で子供たちを見守るといふ古き時代の良き風潮が希薄になったこと等があります。けれども、少年に関しては、立ち直りの可能性を期待でき

る部分が大きい時期であるので、未熟な少年時代には、環境を整えること（指導者や教育）が大切であることを再確認しました。

薬物に関する事例では、薬物乱用防止指導員修了認定証を持っていたので、特に覚せい剤事犯対象者には再犯しないように、きめ細かく接してきました。交野女子学園を退園してきた少女とは学園で面接し八回の文通を経て互いに心を通わせられるようになりました。その後の面接では、彼女の目線に合わせてゆったりと接し薬の恐ろしさについて話し合いました。おかげで強い信頼関係を築くことができ、現在は家庭をもち、毎年、年賀状もくれますので安心していきます。このように、多くの対象者と接してきた経験の中から、二度とない人生の道を少し間違えた人に、思いやりのある優しい心と笑顔で力づけてあげることが、お互いに幸せを感じることができるとおもっています。皆様もこれから一人一人のよき理解者になってあげてください。

編集後記

北日本放送で十二月四日（一月七日再放送）「少年犯罪遺族の思い」が放送されました。

遺族の思いを尊重すると、厳罰化は仕方が無いという意見が多いのですが、少年の立ち直りという面にも目を向けています。保護司も出演しました。ご覧にな

れなかった方は、インターネットにて「少年犯罪遺族の思い」北日本放送 検索

「退任にあたり、快くご寄稿下さった川口氏に感謝申し上げます。射水保護司会の誇りを持って、「心」を受け継いでゆきたいと思っています。